

銚子市公立保育所再編検討委員会（第1回） 会議概要

- 1 日 時 平成22年12月20日（月）午後6時から午後8時まで
- 2 場 所 銚子市勤労コミュニティセンター 2階会議室
- 3 出席者 宮内委員長、石橋委員、鈴木幸枝委員、鶴岡委員、廣野委員、石毛委員、森山委員、鈴木あかね委員、安重委員
事務局…箱家民生部長、伊藤社会福祉課長、岩船子育て支援室長、山谷主査
- 4 内 容 委員会に先立ち、市長から各委員に委嘱状を交付、市長あいさつの後、伊藤社会福祉課長による委員紹介、宮内委員長が議長となり岩船子育て支援室長の公立保育所再編検討委員会資料の説明の後、議事進行を行った。

各委員による質問、意見

- 委員 児童数が減少しているが、総保育士配置数は増えているのはなぜか。
- 委員 児童数が減少しても保育士の配置基準や障害児保育に伴う加配等により職員数が減るとは限らない。障害児に対する基準は3人につき1人か。
- 事務局 障害児に対する国の明確な基準はないが、障害の程度によりどうしても手のかかる障害児の保育には加配が必要になる。
- 委員 児童数に対する保育士の数は私にはよくわからないが、障害児に対応する人数は程度にもよるが、小さい子はそれなりに手がかかるので、私にはまだ保育士が少ないのではないかと感じられる。
- 委員 客観的に入所児童数の推移やマップから考えると第一保育所がかなり児童数が減っている。第一保育所の児童数や建物の古さを考えると再編の対象がそこに絞られる。また、銚子市の財政状況の厳しさを考えると、そのへんが重要なポイントになってくるのかなと思う。
- 委員 いままでのように、父親が働いて母親が家にいる家庭はほとんどない。下請けの仕事も減って、特に母子家庭ではたいへんきびしく、ワーキングプアも増えていると聞く。小さいうちから保育所に預ける家庭が増えているので、保育士さんの数も増えているのかなと思う。
- 委員 今は新しいところに入れたい人が多く、小学校をどこに入れるかを決めてから保育所を選ぶ人が多いようだ。ほんとうは、保育所を統廃合して新しい施設を建てられれば一番良いが、銚子市の財政難を考えるとそれもなかなか難しいと思う。新しく建てるということではないですよ。

- 事務局 老朽化した施設を統廃合した中で、財政的に余裕があり、必要があれば何年かかけて建替えることも考えられるが、今の状況を考えるとむずかしい。現状の中で、子どもの出生数を考えると、第一保育所から第三保育所の施設が東部地域の中の1キロくらいの範囲にあるので、その中で再編できないかという観点を持っている。
- 委員 うちの3人の子どもも第一保育所にお世話になったが、統廃合に関して第一保育所の保護者はどのように受け止めているのか。
- 委員 第一保育所の場所は、明神小や清水小に近く位置的にはすごく良いが、施設も老朽化し、駐車場も狭いので、万一火災などがあると考えると不安を感じるが、なくなるのはやはり寂しい。清水幼稚園もなくなってしまったので、やはり残して欲しいという保護者の意見は多い。保育所を選ぶ時は、小学校入学も見据えている人もかなりいる。
- 委員 今は小学校は自由に選べるのか。
- 事務局 前よりはかなり規制は少ないようです。
- 委員 四中の校舎の解体も始まり、校舎が新しくなると、やはり、小学校は双葉小を選ぶ人が多いと思う。
- 委員 第一保育所の施設の老朽化に伴い、保育所の統廃合を考えざるを得ない少子化の時代になっている。小・中学校の再編計画も進められているが、一番大事なのは、保護者の考えだと思うので、充分取り入れてほしい。
- 委員 入所率の推移をみると、民間の保育所の入所が増えているのは、公立よりも私立のほうが魅力があるのかなと思う。たとえば働きながら保育をする時にバスがあったり、時間外の対応が公立よりも長いなど柔軟な対応ができる。これからは、無認可の保育所もやっていただいて、公立の再編の検討が必要なのかなと思う。
- 委員 第一保育所を第二、第三保育所に吸収するとしたら、父兄にとって納得するもの、魅力あるものをお金をかけずに作る必要がある。民間の保育所は若い保育士が次々と変わる場合があり、公立の保育所は経験をつんだベテランが残っていく。単純に減らすのはどうか。
- 委員 私は、市立高校の再編検討委員もやらせていただいたが、当時は、西高がお山に吸収されるイメージがあったため、統合なのだが、西高の方たちはつらい思いをされたが、今新しい校舎に通う子どもたちを見たときに、納得されている人が多いと聞く。
- 確かに出身校がなくなるのは寂しいと感じるかもしれないが、長い目を見たときに、魅力ある公立、誇りになるようなものを目指していったらよいと思う。

- 委員 若宮小と双葉小が統合したときに、作文を読ませていただいたが、子どもたちは友達が増えてうれしいと父兄よりも喜んでいました。
- 第一保育所がなくなった場合、その児童の施設面での受け入れ体制は、だいじょうぶなのか。
- 事務局 第二保育所は定員が150名のところ入所児童が110名、第三保育所は定員が120名のところ入所児童が90名ちょっとで、定員を超えても15パーセント増の受け入れはできるので、第一保育所の児童分が増えてもなんとか対応できると思う。施設的には、第二保育所も進入路は狭いが第一保育所ほどではなく、第三保育所は、施設も新しく、道路も広い中で送り迎えに苦勞しているという話は聞いていない。第一保育所もやれる範囲の修繕は行っているが、なかなか対応がむずかしく、抜本的な大規模な改修はできていない。
- 各委員の皆様には、時間のある時に各保育所を見ていただけたらと思う。
- 委員 今後、検討委員会をどのような形で運営していくのか。
- 事務局 施設の老朽化や児童数の減少、定員割れの問題もあり、第一保育所から第三保育所の中で統廃合、再編をしていくことを前提として、どのような形が望ましいのか、第一保育所が担っている一時保育を第二、第三保育所が担う必要があるため、各保育所の所長と相談し、他の保育所が役割分担ができるか、詰めたい
- そして、皆様のご了解が得られれば、議論ができるような具体的な項目を考え、次の会議に出したい。
- 委員 議事の進め方として、原案を出していただいて、それに対して意見を出して進めていくとしてよいか。
- 事務局 現状の問題点として、第一保育所から第三保育所まで比較をした中で、各保育所のメリット、デメリット等を示したい。また、定員割れのない適正規模の集団の中で保育を受けた方が、特に高年齢になると、友達との協調性等が養われると思うので、皆さんに検討いただく資料を出したい。検討委員会としてある程度の方向性を決めて、報告書を出していただければ、市ではそれを受けて、保護者、議会等にどうするか充分説明していき、次のステップに進む。
- 委員 来年度の保育所の入所申し込みは、通常通り受付するのか。
- 事務局 検討委員会の報告を受けて23年度に説明していくので、来年度入所分は通常どおり受付する。
- 委員 第一保育所を第二、第三保育所に機能分担してもらおう中で、いきなり廃止はむずかしい。どういう方法で統廃合を進めていったらいいのか。

- 事務局 幼稚園の統廃合の場合は、児童数25人未満になったら複式学級、15人未満になったら募集停止となるので、長くても2年である。
- 委員 統廃合などのうわさが出てくると、どうなるかわからないという不安感からか入所率は悪くなると想定できる。
- 委員 娘が入所する時、清水幼稚園が定員割れを起こしていて、入園人数がかなり少なく、急遽第一保育所に入所した経緯がある。
- 委員 第一保育所から第三保育所の再編を進めていくということだが、0歳児が入所して卒園するまで5年間かかるので、その辺をどのようにしていくのかが問題だ。
- 事務局 次回の会議までには、きちっとした案まではいかないが、議論できるようなものを作りたいと思っている。
- 第2回目の会議は、1月19日又は1月20日の午後6時から開催したいと考えているので、委員の皆さんの都合を明日12月21日までにお電話をいただきたい。場所は今日の会議室よりもこじんまりした小さい会議室を考えている。次回もよろしくお願ひしたい。